

捕虜になった女騎士
く腹。パンサンドバッグく
体験版用シナリオ

2014/6/15

Var. 1. 05

シナリオ…さんきち
サークル名…ケチャップ味のマヨネーズ

【騎士】「うう、騎士であるこの私が、盗賊団を捕まえにきたのに、反対に囚われてしまうなんて……不覚です……」

【騎士】「しかも盗賊の仕掛けた罠に、落とし穴に落ちてしまうなんて……恥ずかしすぎて立ち直れません。それに落ちた拍子に足くじいてしまったし、武器まで取り上げられて、こうして縛られて洞窟に転がされて……ああ、騎士団の皆が止めるのを聞かずに飛び出したのが失敗でした……」

【騎士】「いえそれよりも、盗賊達が卑怯だった事に怒るべきです。正々堂々勝負せずに、あんな罠を使ってくるなんて。絶対許せません！」

【騎士】「でもこのまま捕まっていたら何をされるか……盗賊を取り締まる立場ですから、腹いせに拷問されてしまうかもしれません。その前に何とかしないと……」

【騎士】「えっと、盗賊団は全員で何人いるのでしょうか……うっ、けっこう多い。これは実際に戦ったら、私が負けていたかも……あ、でも女性ばかり？　もしかして女性ばかりの盗賊団なのでしょうか？」

【騎士】「それに私をここに転がしてから、誰も近づいてこない……。遠巻きに見つめているばかりですね。私にあまり興味を示していないようにも見えますが……」

【騎士】「あっ、これはチャンスかも？　そうです、今のうちに縄を切ってしまえば、逃げる事が出来るかもしれません！」

【騎士】「そうと決まれば……んっ、よいしょっ、手首を縛っている縄を、こうしてねじって……引っ張ってやれば、たぶん切れるはず……あ、あら？　何か変な具合に締め付けてきて……」

【盗賊】「おい、さっきから何をこそこそしてるんだ？」

【騎士】「はわっ！？　縄を切ろうとしていたのがばれてしまいます！　ご、誤魔化さないと——い、いたたっ！　絡まった、手首に縄が深く食い込んでしまっ……い、痛い……」

【盗賊】「ああもう、何してるんだよ騎士様。あーあ、手首に絡まってる。あんた人質なんだから、おとなしくしてくれなきゃ困るって」

【騎士】「す、すみません……」

【盗賊】「ちょっと縄緩めるから暴れるなよ。よいしょと」

【騎士】「はあ、痛かった……あ、ありがとうございます。逃げようとして手首捻ってたら、変な具合に絡まってしまいました」

【盗賊】「ははは。そうかい。逃げようとしてたのか」

【騎士】「ええ、隙を見て——ハッ、しまった……」

【盗賊】「隙を見てねえ……」

【騎士】「うっ、とても怖い目で睨んでいます……で、でも負けませんから！」

【盗賊】「ははは。あんた面白いね。何が負けないんだ？」

【騎士】「で、ですからえっと……あなたを倒します！ という事です！」

【盗賊】「ぶっ、あはは！ あたしを倒す？ 縛られてるのにどうやって？」

【騎士】「それは……えっと……縄がほどけたら戦って、それから……」

【盗賊】「うん、それから？」

【騎士】「それからえっと……な、何でそんなニヤニヤ笑っているのですか？」

【盗賊】「うん、騎士様ちよつと可愛いと思って」

【騎士】「か、可愛いですか？ 盗賊のあなたに言われるのは、何か変な気がします……あ、もしかしてあなたは盗賊のリーダーさんですか？」

【盗賊】「ああ、そうだよ。あたしがこの盗賊団のリーダーだ」

【騎士】「そうですか、どうりで他の人と違うと思いました。あつ、という事はあなたがあの落とし穴を掘ったのですか！？」

「盗賊」 「ああ、そうだよ。あたしら荒事には慣れてないからね。騎士様があたしらを倒そうとやってきたのを知ったから、畏のほうへわーっと逃げて——で、警戒もせずバカみたいに追いかけてきた騎士様がどすんと落っこちたってワケ」

【騎士】 「バ、バカは余計です！　というか畏など仕掛けるなど考えてもみませんでした」

「盗賊」 「ふーん、素直な性格なんだね」

【騎士】 「き、騎士ですから素直なんです。それよりあの落とし穴で、足首ひねってしまつて……今も痛くて、歩けないのです……」

「盗賊」 「ああ、それはごめんね。でも無理に歩かせたりしないから安心してよ。ちゃんと荷馬車の手配したから、寝っ転がっていればいいさ。じゃ、あたしはこれで」

【騎士】 「そうですか、それなら……あ、そうではなくてお待ちなさい！」

「盗賊」 「ん？」

【騎士】 「私と……し、勝負しなさい！」

「盗賊」 「はい？　勝負つてなに、じゃんけんでもしたいの？」

【騎士】 「ち、違いますわ！　えーっと、決闘です！　決闘を申し込みます！」

「盗賊」 「はあ？　あたしと決闘……なんで？　騎士様捕まつてるのに？　意味わかんない」

【騎士】 「わ、私は騎士です。騎士は正々堂々とした戦いのなかで勝敗を決めるものなのです。それが落とし穴に落ちてしまつて、勝負もしないままというのは嫌なのです！」

「盗賊」 「あー、つまり騎士様の名誉の為に、あたしと勝負したいって事か」

【騎士】 「ええ、その通りですわ」

「盗賊」 「んー……でもなあ、騎士様は剣の腕前すごいんだろ？　あたしは斬り合い苦手だしなあ……」

【騎士】「私だって一方的な決闘は望みませんわ。決闘とは対等の条件でやりあうものです。ですから素手でやりましょう!」

【盗賊】「素手? コブシとコブシで、ガチの殴り合いするの?」

【騎士】「はい!」

【盗賊】「素手で、ね……うーん……まあ素手だったら斬り殺される事はないか。それならいいけど……あたし、あまり強くないんだよね」

【騎士】「それならば、私は足を負傷しています。ハンデになると思いますが」

【盗賊】「ハンデかぁ……ふふん……くくっ……」

【騎士】「え、何で笑っているのですか?」

【盗賊】「いや何でも。だったら勝負してもいいかな。戦闘のプロである騎士様にハンデ貰えるんだったら、あたしとしても受けないワケにはいかないし」

【騎士】「あ、ありがとうございます!」

【盗賊】「礼を言われるような事じゃないと思うんだけど。ま、いいか。じゃあ縄ほどくよー、いきなり逃げようとするなよー」

【騎士】「ええ、逃げません。決着をつけるまで逃げたりしません!」

【盗賊】 「はいよ、縄ほどいたよ」

【騎士】 「ふう……ありがとうございます。これで勝負出来ますね！」

【盗賊】 「本当に逃げないんだ……」

【騎士】 「はい？ あ、だって足を痛めますから、走って逃げられませんし」

【盗賊】 「いやいや、あたしメチャクチャ近くまで寄ってるんだよ？ 縄ほどいた途端、襲いかかってくるかと思ったのに。首を絞めるとかいろいろ出来たでしょ」

【騎士】 「やりません。私は騎士です。卑怯な事はしません」

【盗賊】 「そっか、さすが騎士様だ」

【騎士】 「ただ決闘をする前に約束して欲しい事があります」

【盗賊】 「うん、なに？」

【騎士】 「私が勝てば、あなたたち盗賊団は解散して欲しいのです。そして盗賊をやめて、真面目に働いて欲しいのです」

【盗賊】 「え、なにそれ。あたし達を捕まえるんじゃないの？」

【騎士】 「その気持ちは少しありましたけど、あなたと話をしていたら気が変わりました。とても真面目な方のようにすし、騎士団で裁くのはその……」

【盗賊】 「優しいんだねー、騎士様。あたしが真面目ね……ははは、照れるな」

【盗賊】 「まあその約束は飲んでもいいけど、騎士様が負けちゃったらどうすんの？」

【騎士】 「先ほど、私の事を人質とおっしゃいました。ですからそのまま人質という事で……どうでしょう？」

【盗賊】「ふむ……まあ騎士様を人質にして国境まで逃げるつもりだったから、それでいいか。うん、約束はOKだよ」

【騎士】「ありがとうございます！」

【盗賊】「だから、まだ勝ってないのに顔輝かせなさんな」

／＼独り言

【盗賊】「ふふつ、決闘か。面白くなってきた。騎士様ってかなり可愛いし、殴って欲しそうなほどお腹露出させてるし……ああつ、すごくエロい声だして苦しむんだろうなあ……」

【騎士】「あの……なにをニヤニヤしているのですか？」

【盗賊】「ん？ ああ、何でもないって。じゃあ勝負だ騎士様」

【騎士】「ええ、いきます！」

【盗賊】「つと、ちよつと待った」

【騎士】「なつ、なんですの？ 出鼻をくじくような事されると……」

【盗賊】「いや決闘する前に質問するの忘れてた。ハンデはもらったけど、騎士様は素手で戦闘訓練とかしてるの？」

【騎士】「そんな事聞いてどうするのです？もしかして怖じ気づきましたか？」

【盗賊】「あー、ま、まあそんなところ？ ははは……」

【騎士】「ええ、もちろん訓練は積んでいます。騎士団の団長とみっちり、マンツーマンでたつぷりですが……その、負けてばかりですけど……」

【盗賊】「え、負けてばかり？もしかして騎士様って弱い？」

【騎士】「し、失礼な弱くはありません。団長が強いだけです。それに団長はボディ攻撃が得意で……私はいつもビキニタイプのお腹を出している装備なので、そこを狙われてしまつて負けるのです……」

「盗賊」 「ふーん。で、一撃で吐いてしまつて、ノックアウトつてワケか」

【騎士】 「い、一撃ではありませんわ。まんべんなく、お腹にダメージを与えてくるのです。それがきつくて……」

「盗賊」 「ほほう、まんべんなくね」

【騎士】 「はい。みぞおちや肝臓、胃袋にたっぷりパンチ入れてきて……苦しくて足が止まってしまうと、頭を抱え込まれて膝でお腹を蹴り上げてきて……おへその辺りから下腹部まで、たっぷり膝蹴りを喰らってしまうのです……」

「盗賊」 「ふーん。じゃあ弱いんだ」

【騎士】 「ち、違います。私が言いたいののは、一撃で倒れないという事です。素手で勝負をする限り、私はけっこう打たれ強いという事です」

「盗賊」 「なるほどねー」

／＼独り言

「盗賊」 「でもそれって手加減されて鰯られてるって事だろうけどね……団長様もきつい事するねえ。ま、この騎士様見てたらたっぷり虐めなくなるけど……」

「盗賊」 「ん、答えてくれてありがと騎士様。じゃあ決闘始めちゃおうか」

【騎士】 「ええ、勝負です！」

3.	決闘	(シナリオは製品版でご覧頂けます)
4.	リンチ	(シナリオは製品版でご覧頂けます)
5.	サンドバッグ	(シナリオは製品版でご覧頂けます)
6.	敗北	(シナリオは製品版でご覧頂けます)

② サークル挨拶音声

「サークル、ケチャップ味のマヨネーズ」

「この度は本作品をご購入いただきありがとうございます」

「本作品は音声作品です。イヤホンやヘッドホンなどを使用して」

「椅子に座ったり、ベッドに横になるなどしてリラクセスした状態でお聞き下さい」

「音声に気をとられすぎて椅子やベッドから落ちたり」

「物にぶつかるなどして怪我などしないようお気をつけ下さい」

「また、イヤホンやヘッドホンの端子が抜けていることに気づかず」

「スピーカーから大音量で本作品を再生した場合、あなたの人生に深刻な

問題を発生させる恐れがありますのでくれぐれもご注意ください」

「それでは、本編をお楽しみ下さい」

8. 体験版ダウンロードの案内音声

「この度は体験版をダウンロードいただきありがとうございました」

「あ、私、騎士団に入ったばかりの新人です。よろしくお願いします！」

「早く一人前の騎士として認められるように一生懸命頑張ります！」

「ところで、今回のお話しなのですが」

「最近森に盗賊が出て、商人や旅人が襲われているらしいんです」

「困ってる人を助けるためにも、その悪い盗賊達を懲らしめなければなりません」

「騎士団のみんなに、私が盗賊の討伐に行くって話したら、『お前じゃ無理だ』って笑われ
たけど、こう見えても、わたしとっても強いんです」

「盗賊達をやっつけて、みんなを見返してやります！」

「私一人で手柄を立てて、出世とかしちやったりして……ふふふ……」

「この音声ドラマは、私が、悪い盗賊達を一網打尽にして大活躍するお話しになると
思います！」

「体験版を聴いて気に入ってくれたら、『捕虜になった女騎士 く腹パンサンドバッグ』
の製品版を買って下さいね！」

9. おまけ音声 腹パンをされ続ける女騎士 ループして聴いてね（はあと

（シナリオは製品版でご覧頂けます）

10. おまけ音声2 腹パンをされ続ける女騎士2 ループして聴いてね（はあと

（シナリオは製品版でご覧頂けます）